

## 第5時間目 「製図に用いる線の種類と寸法記入の方法を学ぼう」展開案

### (1) ねらい

基本的な製図に用いる線や寸法記入の方法を理解させると同時に新たに提示した立体を、既習の製図法に則って図として表現させることにより、一層の製図技能を定着させる。

ふり返しシートの学習記録や個人内評価の様子をもとに、学習による自己の変容を感じさせ、学習成果に自信を持たせる。

### (2) 準備

(教師) ふり返しシート、製図用立体(人数分)、製図用紙、提示用製図見本

(生徒) 三角定規、直定規、分度器、鉛筆、ディバイダ(コンパス)

### (3) 展開

学 習 活 動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法
学習係が、事前にふり返しシートを、個々に返却しておく			【生活の
本時の学習内容を知り、学習のめあてを持つ。	5分	製図能力の向上を確認する視点を持って本時の学習に取り組むようにさせる。	技能】 【B規準】図法にしたがって、立体を図面に描き表すことができる。
外形線(太い実践)、寸法線・寸法補助線(細い実践)、かくれ線(破線)の使い分けを知る。 寸法を表す数字の基本的な記入のしかたを知る。 製図の復習として、既習の製図法のうち任意の一つの図法によって、初見の立体を図で表現する。	30分	3つの図法のうち「難しい」と感じた図法で描くことに挑戦し、製図の反復練習の場とするよう助言する。(できるだけふり返しシートを通じて、個々の生徒にどの図法に一層の習熟が必要かを伝えておくようにする。) 製図技能について努力を要すると判断される生徒については、比較的よく理解ができていると判断される図法を用いて製図に取り組むようふり返しシートを通じて助言する。 ノートやふり返しシートなどで、図法を確認させる。 机間巡視によって、学級全員の取り組みを見取る。図の仕上がり具合を、言葉がけによって評価する。	【A規準】倍率や画面の配置などに配慮しながら、図法にしたがって、立体を図面に描き表すことができる。 (観察・作品) 【関心/意欲/態度】 【B規準】ふり返しシートに自己の変容を肯定的に記載することができる。 【A規準】ふり返しシートに自己の変容を肯定的に記載することができ、今後の学習に意欲を示した記述ができる。
ふり返しシート上の学習記録やグラフの変化、本時の課題への取り組みの様子などを確認させ、製図学習を総括して自己評価する。	15分	肯定的に自己評価出来るようにさせる。 自分の変容を適切に見取ることができない生徒には、教師が言葉がけを行い、自覚を促す。(それ以前の学習の中で、ふり返しシートなどを通じて技能の上達や意欲的な取り組みなどを積極的に認め、評価するようになる。)	【A規準】 (ふり返しシート)
学習係が、ふり返しシートを回収する。			